

cine), Saunders A²(²Drexel University). Lentiviral short hairpin RNA silencing of histidine decarboxylase in human mast cells. The 64th American Academy of Allergy Asthma & Immunology. Philadelphia, Mar.

V. その他

- 1) 木村直史. 薬物と看護. メヂカルフレンド社編集部編. 全国看護学校・短期大学〈進学コース〉入学試験問題・解答集. 2008年版. 東京: メヂカルフレンド社, 2007. p. 40-6, 329-32.
- 2) 木村直史. 薬物と看護. メヂカルフレンド社編集部編. 准看護師試験 問題・解答集. 2008年版. 東京: メヂカルフレンド社, 2007. p. 41-50, 387-8.

病 理 学 講 座

| | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 教授: 羽野 寛 | 人体病理学: 特に肺・肝の臓器病理学 |
| 教授: 山口 裕 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に腎・泌尿器の病理, 移植臓器の病理 |
| 准教授: 福永 真治 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に軟部腫瘍・産婦人科の病理 |
| 准教授: 酒田 昭彦 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に肺・心の病理 |
| 准教授: 鈴木 正章 | 人体病理学: 特に泌尿生殖器・腎細胞癌・乳癌の病理 |
| 准教授: 池上 雅博 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に消化管の病理 |
| 講師: 千葉 諭 | 人体病理学: 特に肝・骨髄・循環・臍・胎生形態学の病理 |
| 講師: 菊地 泰 | 実験病理学および分子病理学: 特に腫瘍学 |
| 講師: 二階堂 孝 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に骨軟部腫瘍・リンパ節の病理診断学 |
| 講師: 鷹橋 浩幸 (病院病理部に出向中) | 泌尿生殖器の分子病理学と診断学 |
| 講師: 清川 貴子 | 外科病理学: 特に婦人科の病理, 細胞診断学 |
| 講師: 野村 浩一 (病院病理部に出向中) | 外科病理学: 特に婦人科の病理 |
| 講師: 金網友木子 (病院病理部に出向中) | 人体病理学: 特に腎組織病理 |

教育・研究概要

I. 肝臓に関する研究

1. それまでの研究で, NASHの早期病変は, 中心静脈とその小葉内末梢枝を線維化の場として進行する結果, 隣接する小葉の中心静脈を結ぶ帯状の線維化がおき, 結果として温存された門脈域がその線維化によって困繞されることを明らかにした。今年には症例を追加し, 同様の結果を得た。

2. 慢性肝炎から肝硬変への形態学的移行について再検討した。慢性肝炎で, 小葉の骨格をなす門脈枝が, 炎症と線維化の進行により, 最初は部分的に崩壊し, 徐々に範囲が拡大する過程を明らかにした。さらに肝硬変の再生結節形成は, エネルギー的に非平衡状態にある組織において不安定状態が出現したための自己形成の過程と推測した。

3. 正常肝, 慢性肝炎, 肝硬変におけるリンパ管の

変化について 65 例を用いて D2-40, CD34 の免疫染色を行った。結果、正常肝では門脈域の動脈周囲に裂隙状のリンパ管を認め、慢性肝炎、肝硬変ではリンパ管の増加、拡張が見られ、分布も広がっていた。この変化は、被膜下の門脈域で目立ち、肝臓の線維化とある程度の相関性があった。

4. 慢性肝炎 (C 型)・肝硬変 (C 型) を対象に、酸化ストレスによる DNA 傷害および修復の分布と推移を、残留時間に差のある二つの DNA 酸化損傷マーカー、8-OHdG (8-hydroxy-2'-deoxyguanosine) と TG (thymidine glycol) の発現状況から検討した。結果、8-OHdG は肝細胞が主体であり、一方、TG は肝細胞のみならず胆管上皮・類洞細胞・血管内皮・リンパ球でもびまん性陽性であった。

5. 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) における肝嚢胞病変について、連続組織切片を作成し組織構造の形態解析を行った。その結果、ADPKD 症例では細胆管の増殖が著明となり von Meyenburg complex となると共に更に胆管上皮に内覆された肝内嚢胞となる。また、胆管腺上皮も増殖し胆管周囲嚢胞を形成する。von Meyenburg complex には、小葉間胆管と連続性のあるものとなないものがある。肝内嚢胞は動脈支配性であるが、von Meyenburg complex の段階ですでに動脈の結節内への伸展が認められる。

II. 腎に関する研究

1. 嚢胞状腎癌；腫瘍全体が嚢胞状であるものから、一部が嚢胞状であるものまでのスペクトラムがある。嚢胞状の部が 50% 以上である場合、転移例はなく、予後は極めて良好である。

2. 東京女子医科大学および関連病院の移植腎組織生検検体を用い、生体腎移植症例の斑状尿管上皮傷害 (patchy tubular injury: PTI) の病理組織学的意義を評価した。結果、PTI は移植腎局所の血流障害に関連し、特に未発見の血管型拒絶反応の存在を示唆する因子であることが示された。

3. ミトコンドリア腎症生検例の組織学的解析。顆粒状に腫大する尿管上皮細胞を Laser microdissection で取り出し、その細胞自身のミトコンドリア異常を検討した。個々の細胞の組織学的病変とミトコンドリア異常が対応すると思われた。

4. 骨髄移植剖検腎 15 例の組織学的解析を行った。血栓性微小血管症が 9 例に見られた。程度は軽度から高度で、カルシニューリンインヒビターとの関連は不明であった。

5. 移植腎に関する研究

1) 慢性拒絶反応例には慢性移植糸球体症が起こり、内皮に caveolae 増生が見られ、その重症度と相関し、内皮の phenotypic change が示唆された。

2) 慢性拒絶反応例には傍尿管細毛血管に中等度から高度の peritubular capillaritis と基底膜肥厚が見られ、caveolin-1 陽性内皮の増加が見られ、慢性拒絶反応の重症度と相関し、内皮の phenotypic change が示唆された。

III. 消化管に関する研究

外科的に切除された大腸 SM 癌 136 病変を用いて、SM 癌におけるリンパ節転移の危険因子について検索した。リンパ管侵襲を D2-40 染色、静脈侵襲については弾性線維染色、CD31, CD34 染色を施行し、脈管侵襲を客観的に同定したことが特色である。他の因子と共に多変量解析を行った結果、リンパ節転移と最も関係の深かった因子は、リンパ管・静脈侵襲を合わせた脈管侵襲であった。

IV. 産婦人科に関する研究

1. 子宮頸部腺癌の組織亜型別発癌因子について：子宮頸部腺癌の発癌にはヒトパピローマウィルス (HPV) 感染が関与している頻度が高いが、特殊な組織亜型では HPV 感染が無関係である可能性が示唆された。

2. 子宮頸部分葉状過形成の診断基準の確立：子宮頸部腺癌との鑑別が問題となる良性病変である子宮頸部分葉状過形成の肉眼的特徴について検索した。

3. 卵巣ミューラー管性境界悪性腫瘍の発生機序：卵巣では報告がない予備細胞類似細胞が、卵巣ミューラー管性境界悪性腫瘍および子宮内膜症でも認めることに注目し、予備細胞類似細胞と腫瘍発生の関係について検索した。

4. 生検材料として得られた病理組織標本を用いて、ミューラー管性卵巣境界悪性腫瘍における予備細胞類似細胞の有無の検討を行った。子宮頸部腺癌に合併する内頸部腺管過形成性病変の頻度を検討した。

V. 泌尿生殖器に関する研究

1. 前立腺癌の研究を継続して行い、臨床病理学的研究ではこれまでの研究結果をまとめ、総説を主とする論文にまとめた。前立腺癌の治療による組織学的変化と治療効果判定に関する総説を執筆した。分子病理学的研究では、微小前立腺癌から臨床癌、さ

らには転移癌へと進展する過程での染色体 LOH 解析を行い、包括的な結論を発表予定である。

2. 前立腺に癌が多発する症例においてその個々の癌体積と遺伝子変異 LOH の頻度を比較し検討することにより、微小な潜在的前立腺癌の臨床的顕性化に関与する遺伝子変異を同定する。

VI. 呼吸器の病理に関する研究

1. 787 例の肺癌剖検症例を用いて、原発性肺癌の臓器転移を解明するべく解析を行ってきた。2007 年度はこれを元に、リンパ節転移の機序を解明するため、リンパ節の基本構造の解析、立体構築を利用した研究を進めた。

VII. その他

1. 胃癌・大腸癌および腎細胞癌において、ミトコンドリア DNA の全配列および Genomic instability 関連の遺伝子・sequence を PCR-SSCP 法を用いて検討し、上記の癌発生 Genomic instability の関与の低さが判明した。がん幹細胞の考え方の優位性を示すものと考えている。

2. 肝細胞がんの発生・進展に関する責任遺伝子を探索することを最終目的とし、原発性肝細胞がん 86 症例を対象とし、8 番染色体短腕領域にある 18 のマイクロサテライトマーカーにて網羅的に LOH 解析を行った。結果、8p22-23 領域の高頻度欠失は肝細胞がんの発生だけでなく、転移過程においても重要であることを明らかにした。肝細胞がんの発生または転移に関連する責任遺伝子は候補領域 8p22-23 にある *D8S503*, *D8S1130*, *D8S552*, *D8S1754*, *D8S1827*, *D8S254*, *D8S258*, *D8S262*, *D8S1819*, *D8S1109*, *D8S261* の近傍に存在している可能性が高いと推察した。

「点検・評価」

スタッフおよび基本的業務：業務は教育、研究、診断業務である。講座は主として教育、病院病理部は主として病理診断業務を担っているが、この役割分担もスタッフの減少で難しくなりつつある。平成 19 年 4 月時点で、講座に病理部に 2 人出向、病理部から 1 人が講座に復帰したため、平成 19 年度の病理学講座のスタッフは、教授 1 人、准教授 1 人、講師 3 人、助教 2 人、本院病理部は准教授 1 人、講師 2 人、助教 4 人でスタートした。分院病理部の陣容は昨年度と同様であった。その後 6 月末に病院病理部の助教 1 人が退職した。20 年 1 月には院病理部助教と青戸病院病院病理部講師の勤務交代があった。病院病理部にお

ける業務量は多くそれに見合うだけの人員を確保できず、病理部、講座ともに欠員を生じているのが実情である。そのため引き続き本院病理部には講座から講師、助教が週 1 回診断業務のバックアップに入り、土曜日も 3 週に 1 回講座が担当し応援している。昨年度の「点検・評価」にも記載されているとおりで、病理医不足が徐々に深刻さをましてきている。これは病理医を希望する新人医師が少ないためであり、全国的な傾向で私どもだけの特殊事情ではない。僅かだが入局希望者のいるのが救いであり、これらの新人を育成するためにも体制の見直しを慎重に進める必要がある。

教育：基本的に昨年度と変わらない。座講については、3 年生コース臨床基礎医学 I、4 年生コース臨床医学 I を中心に病理学関連科目の講義に参加している。前者では主に病態病理学を教え、疾病の基本的成り立ちについて理解してもらう様に努めた。臨床医学 I は臓器別疾患となるが、各ユニット内で、疾患の病理学的側面について講義している。多くのユニットに参加しており、病理に課せられた責務を果たしている。演習、実習関係では大きなものとして、3 年ユニット病理学総論実習、4 年ユニット病理学各論実習がある。それぞれ週 1 回、前者は 4 月-7 月、後者は 4 月-12 月までの期間は例年通りである。今年も学生をグループ分けして指導する方式をとり、スケッチを毎回回収しその都度評価するという新たな形を導入し、学生に対してさらに木目細かく指導出来るようにした。その他、3 年症候学演習、研究室配属、6 年 CPC、選択実習にも参加した。選択実習では 4 フェーズに亘って学生がきており、例年通りに Kursus を中心に行われた。CPC については、例年通り第 1 回目にモデル CPC を行い、学生に CPC とは何であるかを理解してもらい、以後 10 回の CPC が行われた。この時期の 6 年生は例年同じであるが、授業に集中できない人たちが目についた。座講、実習を通して教員の負担は少なくないが、教育の質を保つように努力してくれたと思っている。

病理診断業務および病理解剖：病院病理部では、病院から発生するこれらの業務を毎日行っているわけだが、冒頭のべた様に人員不足の中で皆が協力して、大過なく業務が進められてきたことは評価されて良い。講座でも教室員が分担して委託研究の病理診断業務を行っている。また院外から依頼される病理解剖にもできるだけ対応している。なお医療関連死に関するモデル事業関連の解剖が 1 例行われている。

研究：病理学講座・病院病理部は、本学の伝統で

ある人体病理を中心に研究活動を行っており、適宜分子病理も取り入れている。診断業務や教育などの日常業務に時間がとられその分研究時間が圧迫されるということが常態化しつつあり、時間をかけてじっくり取り組む基礎的研究をするのが容易でなくなっている。それを反映して臨床病理学的な研究が増加してきており、また共同研究も増えている。今の状況の改善は容易ではないだろうが、基礎的研究と臨床病理学的研究の両方を如何に推進していくかが課題である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Sakai K, Takatsu A, Shigeta A, Abe S, Ikegami M, Takagi K. Sudden death due to undiagnosed acute promyelocytic leukemia: a case report. *Int J Legal Med* 2007; 121(4): 311-4.
- 2) Kitamura H, Shimizu K, Takeda H, Tai H, Ito Y, Fukunaga M. A case of henoch-schonlein purpura nephritis in pulmonary tuberculosis. *Am J Med Sci* 2007; 333(2): 117-21.
- 3) Kanayama R¹⁾, Oka K¹⁾, Fukunaga M, Tomisawa H¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Okano M¹⁾(¹Mito Saiseikai General Hosp), Hakozaki H (Fukushima Rosai Hosp). Spindle cell carcinoma arising in the pharynx, with granulocytosis and high serum granulocyte colony stimulating factor titre. *J Laryngol Otol* 2007; 121(6): 597-600.
- 4) Oikawa H¹⁾, Oka K¹⁾, Nagakura S¹⁾, Fukunaga M, Sando N¹⁾, Kashimura J¹⁾(¹Mito Saiseikai General Hosp), Hakozaki H (Fukushima Rosai Hosp). Spindle and giant cell type undifferentiated carcinoma arising in the common bile duct: Acase report. *Pathol Res Pract* 2007; 203(3): 179-84.
- 5) Ushijima K (Kurume Univ), Yahata H (Kyusyu Univ), Yoshikawa H (Kyusyu National Cancer Center Hosp), Konishi I (Tsukuba Univ), Yasugi T (Shinshu Univ), Saito T (Tokyo Univ), Nakanishi T (Aichi Cancer Center Hosp), Sasaki H, Saji F (National Kure Med Center), Iwasaka T (Saga Univ), Hatae M (kagoshima City Hosp), Kodama S (Niigata Cancer Center), Saito T (Sapporo Med Univ), Terakawa N (Tottori Univ), Yaegashi N (Tohoku Univ), Hiura M (National Shikoku Cancer Center), Sakamoto A (Kyorin Univ), Tsuda H (National Defese Med Univ), Fukunaga M, Kamura T (Japan Gynecologic Cancer Study Group). Multicenter phase II study of fertility-sparing treatment with medroxyprogesterone acetate for endometrial carcinoma and atypical hyperplasia in young women. *J Clin Oncol* 2007; 25(19): 2798-803.
- 6) Fukunaga M, Suzuki K (St Like's International Hosp), Saegusa N (Niiza Hosp), Folpe AL (Mayo Clinic). Composite hemangioendothelioma: Report of 5 cases including one with associated maffucci syndrome. *Am J Surg Pathol* 2007; 31(10): 1567-72.
- 7) Takao M, Okamoto A, Nikaido T, Urashima M, Takakura S, Saito M, Saito M, Okamoto S, Takikawa O, Sasaki H, Yasuda M, Ochiai K, Tanaka T. Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer. *Oncol Rep* 2007; 17(6): 1333-9.
- 8) Hasegawa M, Furuya M, Kasuya Y, Nishiyama M, Sugiura T, Nikaido T, Momota Y, Ichinose M, Kimura S. CD151 dynamics in carcinoma-stroma interaction: integrin expression, adhesion strength and proteolytic activity. *Lab Invest* 2007; 87(9): 882-92.
- 9) Kanetsuna Y, Hisano M¹⁾, Miura K¹⁾, Tanaka E¹⁾, Hattori M¹⁾, Teraoka S¹⁾(¹Tokyo Women's Med Univ), Yamaguchi Y. A case of massive kidney graft calcification that developed early in a child recipient with hyperparathyroidism. *Clin Transplant* 2007; 21(Suppl 18): 40-5.
- 10) Ishida H¹⁾, Miyamoto N¹⁾, Shirakawa H¹⁾, Shimizu T, Tokumoto T¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Shimmura H¹⁾, Setoguchi K¹⁾, Toki D¹⁾, Iida S¹⁾, Teraoka S¹⁾, Takahashi K (Niigata Univ), Toma H¹⁾(¹Tokyo Women's Med Univ), Yamaguchi Y, Tanabe K. Evaluation of immunosuppressive regimens in ABO-incompatible living kidney transplantation-single center analysis. *Am J Transplant* 2007; 7(4): 825-31.
- 11) Aita K¹⁾, Yamaguchi Y, Horita M²⁾, Ohno M²⁾, Tanabe K²⁾, Fuchinoue S²⁾, Teraoka S²⁾, Toma H²⁾(²Tokyo Women's Med Univ), Nagata M¹⁾(¹Tsukuba Univ). Thocking of the peritubular caoillary basement membrane is a useful diagnostic marker of chronic rejection in renal allografts. *Am J Tansplant* 2007; 7(4): 923-9.
- 12) Yamamoto I, Horita S¹⁾, Takahashi T (Vanderbilt Univ), Tanabe K¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾, Hattori M¹⁾(¹Tokyo Women's Med Univ), Yama-

- guchi Y. Glomerular expression of plasmalemmal vesicle-associated protein-1 in patients with transplant glomerulopathy. *Am J Transplant* 2007; 7(8) : 1954-60.
- 13) Goya N¹⁾, Koga S (Tokushukai Hosp), Tomizawa Y¹⁾, Onitsuka S¹⁾, Yamaguchi Y, Toma H¹⁾ (Tokyo Women's Med Coll). Effects of direct injection of dehydrated ethanol on PC3 human prostate cancer cells in nude mice: Preliminary study. *Int J Urol* 2007; 14(8) : 760-3.
- 14) Setoguchi K¹⁾, Ishida H¹⁾, Shimmura H¹⁾, Shimizu T¹⁾, Shirakawa H¹⁾, Omoto K¹⁾, Toki D¹⁾, Iida S¹⁾, Setoguchi S¹⁾, Tokumoto T¹⁾, Horita S¹⁾, Nakayama H¹⁾, Yamaguchi Y, Tanabe K¹⁾ (Tokyo Women's Med Univ). Analysis of renal transplant protocol biopsies in ABO-incompatible kidney transplantation. *Am J Transplant* 2008; 8(1) : 86-94.
- 15) Kabayashi A, Utsunomiya Y, Kono M, Ito Y, Yamamoto I, Osaka N¹⁾, Hasegawa T¹⁾, Hoshina S, Yamaguchi Y, Kawaguchi Y¹⁾ (Kanagawa Prefectural Hosp), Hosoya T. Kidney biopsy teaching case malakoplakia of the kidney. *Am J Kidney Dis* 2008; 51(2) : 326-30.
- 16) Wakui S, Akagi Y¹⁾, Muto T¹⁾, Yokoo K¹⁾, Hirono S¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Kamei Y¹⁾, Shirota K¹⁾, Akahori F¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hano H, Endou H¹⁾, Kanai Y¹⁾ (Azabu Univ). Testicular toxicology of pubescent and adult rats prenatally exposure to 3,3',4,4',5-pentachlorobiphenyl. *J Toxicol Pathol* 2007; 20(3) : 133-40.
- 17) Mamori S, Nagatsuma K, Matsuura T, Ohkawa K, Hano H, Fukunaga M, Matsuura M, Masui Y, Fushiya N, Onoda H, Searashi Y, Takagi I, Tajiri H. Useful detection of CD147 (EMMPRIN) for pathological diagnosis of early hepatocellular carcinoma in needle biopsy samples. *World J Gastroenterol* 2007; 13(21) : 2913-7.
- 18) Kurosaka D, Yoshida K, Yasuda J, Noda K, Furuya K, Ukichi T, Kingetsu I, Joh K, Yamaguchi N (Akita Univ), Saito S, Yamada A. The effect of endostatin evaluated in an experimental animal model of collagen-induced arthritis. *Scand J Rheumatol* 2007; 36(6) : 434-41.
- 19) Joh K. Pathology of glomerular deposition diseases. *Pathol Int* 2007; 57(9) : 551-65.
- 20) Joh K. Pathology of glomerular deposition diseases and fibrillary glomerulopathies associated with paraproteinemia and haematopoietic disorder. *Nephrology (Carlton)* 2007; 12(Suppl 3) : S21-4.
- 21) Miki J¹⁾, Furusato B (AFIP), Li H¹⁾, Gu Y¹⁾, Takahashi H, Egawa S, Sesterhenn AI, McLeod GD (Walter Reed Army Med Cent), Srivastava S¹⁾, Rhim SJ¹⁾ (Uniformed Services Univ). Identification of putative stem cell markers, CD133 and CXCR4, in hTERT-immortalized primary non-malignant and malignant tumor-derived human prostate epithelial cell lines and in prostate cancer specimens. *Cancer Res* 2007; 67(7) : 3153-61.
- 22) Ueda K, Yamada K, Urashima M, Ishibashi Y, Shirai M, Nikaido T, Takahashi H, Okamoto A, Saito M, Yasuda M, Ohkawa K, Tanaka T. Association of extracellular matrix metalloproteinase inducer in endometrial carcinoma with patient outcomes and clinicopathogenesis using monoclonal antibody 12C3. *Oncol Rep* 2007; 17(4) : 731-5.
- 23) Lu T, Hano H. Identification of minimal regions of deletion at 8p23.1-22 associated with metastasis of hepatocellular carcinoma. *Liver Int* 2007; 27(6) : 782-90.
- 24) 米田雅美¹⁾, 山口 裕, 山本 泉, 小倉 誠¹⁾, 宇都宮保典, 佐中 孜¹⁾ (東京女子医科大学), 細谷龍男. MPO-ANCA 関連腎炎の重複腎生検による腎病理推移についての組織学的検討 (Histological investigation of renal pathological changes in MPO-ANCA-related nephritis using repeat renal biopsies). *日腎会誌* 2007; 49(4) : 438-45.
- 25) Wakui S, Takagi F¹⁾, Muto T¹⁾, Yokoo K¹⁾, Hirono S¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Shirota K¹⁾, Akahori F¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hano H, Endou H¹⁾, Kanai Y¹⁾ (Azabu Univ). Spermatogenesis in aged rats after prenatal 3,3',4,4',5-pentachlorobiphenyl exposure. *Toxicology* 2007; 238(2-3) : 186-91.
- 26) Mori M, Gu S, Watanabe M, Manome Y, Hano H. Ontogeny and phenotype of macrophage and T-lymphocytes in rat yolk sac and embryonic liver. *Jikeikai Med J* 2007; 54(3) : 159-68.
- 27) Joh K, Koike K¹⁾, Kitamura H¹⁾, Imasawa T¹⁾, Nakazato T¹⁾ (Chiba-East Nat'l Hosp). Histological lesions as predictors for clinical prognosis and effectiveness of steroid therapy in IgA nephropathy: uni- and multivariate analysis on 275 adult patients (IgA 腎症における臨床的予後とステロイド療法の効果の予測因子としての組織学的病変: 275名の成人患者の単変量及び多変量解析). *Nephrol Front* 2007; 6(3) : 314-5.
- 28) 二村浩史, 高山澄夫¹⁾, 堤 純¹⁾, 青木照明¹⁾ (益子病

院), 池上雅博, 矢永勝彦. 内視鏡的に経過観察し得た胃小細胞癌の1例. *Gastroenterol Endosc* 2007; 49(8): 1827-31.

II. 総説

- 1) 二階堂孝, 中野雅貴, 小池裕人, 中山順今, 野村浩一, 池上雅博. 【消化器臨床医のための病理学 特殊染色を含めて】特殊染色の盲点. *臨消内科* 2007; 22(10): 1389-96.
- 2) 池上雅博, 三戸部慈美, 小池裕人, 二階堂孝, 斉藤彰一. 【下部消化管非上皮性腫瘍 リンパ系除く】非上皮性腫瘍の病理診断. *早期大腸癌* 2008; 12(1): 9-17.
- 3) 福永真治. 子宮内膜症の特殊病態を病理と臨床から考える 異型内膜症. *産婦の実際* 2007; 56(10): 1451-5.
- 4) 鷹橋浩幸. 前立腺癌の病理診断—新しい Gleason grading system. *Urology Today* 2007; 14(3): 98-104.
- 5) 清川貴子, 二階堂孝. シリーズで学ぶ最新知識 産婦人科領域の病理診断における免疫組織化学 免疫組織化学の基本. *産婦の実際* 2008; 57(3): 573-8.
- 6) 清川貴子. 卵巣粘液性腫瘍 分類と診断基準. *病理と臨* 2007; 25(12): 1280-1.
- 7) 濱田智美, 清川貴子. 【子宮の病理 子宮頸部】頸部腺癌をめぐる問題. *病理と臨* 2008; 26(3): 254-62.
- 8) 鷹橋浩幸. 前立腺癌の病理と新改定 Gleason 分類 (ISUP2005). *最新医* 2007; 別冊 (新しい診断と治療の ABC 49: 内分泌 4): 25-41.
- 9) 山口 裕. 【移植の病理 最近の話題】長期患者の移植腎病理. *病理と臨* 2008; 26(1): 61-7.
- 10) 福永真治. 【誤診しやすい腫瘍・類腫瘍】異型ポリープ状腺筋腫 atypical polypoid adenomyoma (APA) 子宮体部癌との鑑別とその位置付け. *産と婦* 2007; 6(1): 641-5.

III. 学会発表

- 1) Fukunaga M. Clinicopathology of placental site trophoblastic tumor. The 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases. Fukuoka, Nov.
- 2) Fukunaga M. Ovarian atypical endometriosis: Its close association with malignant epithelial tumors. 97th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology. Denver, Mar. [Mod Pathol 2008; 21: 204A]
- 3) Fukunaga M, Ushijima K, Yahata T, Kamura H, Yoshikawa H, Tsuda H, Sakamoto A. A multicentric prospective study of hormonal therapy

- for atypical endometrial hyperplasia and endometrioid carcinoma in young women: histologic changes and treatment outcome. 97th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology. Denver, Mar. [Mod Pathol 2008; 21: 204A]
- 4) 福村絢奈, 芦川智美, 三浦由記, 八木澤幸子, 梅沢敬, 本間隆志, 新崎勤子, 野村浩一, 二階堂孝, 池上雅博. 老年女性外陰部皮下に発生した小円形細胞腫瘍の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会. 仙台, 11月. [日臨細胞会誌 2007; 46(Suppl. 2): 429]
- 5) 酒田昭彦. C型慢性肝疾患における酸化ストレスによる DNA 傷害と p53 蛋白の発現. 日本適応医学会第11回学術集会. 札幌, 6月. [適応医 2007; 11(1): 29]
- 6) Kanetusun Y, Horita S¹⁾, Tanabe K¹⁾, Teraoka S¹⁾, Hattori M¹⁾, Toki D¹⁾ (¹⁾Tokyo Women's Med Univ), Yamaguchi Y. Does patchy tubular injury reflect renal allograft dysfunction in acute rejection? The 9th Banff Conference of Allograft Pathology. La Coruna, June.
- 7) 金網友木子, 堀田 茂¹⁾, 田辺一成¹⁾, 土岐大介¹⁾, 寺岡 慧¹⁾ (¹⁾東京女子医科大学), 服部元史, 山口 裕. Patchy tubular injury は急性拒絶反応時の移植腎機能障害の指標となりうるか? 移植腎病理研究会・第11回学術集会. 東京, 7月.
- 8) 山口 裕. 非特異的尿細管間質病変の見方, 考え方. 移植腎病理研究会・第11回学術集会. 東京, 7月.
- 9) 鷹橋浩幸. 改定されたグリソン分類 (ISUP2005) の概要と運用法. 第27回日本画像医学会. 東京, 2月. [日画像医誌 2007; 26(2): 111]
- 10) Takahashi H. Therapeutic applications of allelic imbalance and immunohistochemistry for prostate cancers. The Asia-Pacific Society for Molecular and Immunohistology. Singapore, May.
- 11) 鷹橋浩幸. 前立腺癌の組織学的診断と改定グリソン分類 (ISUP2005) の概要, 運用法. 癌研究会 有明病院泌尿器病理カンファレンス. 東京, 5月.
- 12) 鷹橋浩幸. 前立腺癌の組織学的診断と改定グリソン分類 (ISUP2005) の実際. Expert Conference in Urology. 高松, 4月.
- 13) 清川貴子. 卵巣腫瘍の病理. 第197回日本産婦人科学会熊本地方部会学術集会. 熊本, 3月.
- 14) Park KJ¹⁾, Lamb C¹⁾, Oliva E (Massachusetts General Hosp), Soslow RA¹⁾ (¹⁾Memorial Sloan-Kettering Cancer Cent), Kiyokawa T. Unusual endocervical adenocarcinomas: An immunohistochemical analysis with molecular detection of human papillomavirus. 97th Annual meeting United States and Canadian Academy of Pathology.

- Denver, Mar. [Mod Pathol 2008; 21 (Suppl 1) : 217A]
- 15) 清川貴子, 頻度の高い卵巣腫瘍の病理所見. 第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会. 東京, 6月. [日婦人腫瘍会誌 2007; 25(3) : 182-3]
- 16) 濱田智美, 二階堂孝, 清川貴子, 岡本三四郎, 山田恭輔, 田中忠夫. Mixed endometrial stromal and smooth muscle tumor of the uterus の一例. 第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会. 東京, 6月. [日婦人腫瘍会誌 2007; 25(3) : 274]
- 17) 清川貴子, 濱田智美, 佐野慎一 (佐野産婦人科), 吉田幸洋 (順大). Intraplacental choriocarcinoma の一例. 第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会. 東京, 6月. [日婦人腫瘍会誌 2007; 25(3) : 279]
- 18) Lu T, Kikuchi Y, Sudo A, Ikegami M, Hano H. Identification of minimal region of deletion on 8p23.1-22 associated with metastasis of hepatocellular carcinoma. American Association for Cancer Research (AACR) 98th Annual Meeting. Los Angeles, Apr. [Proc Am Assoc Cancer Res 2007; 48 : 466-7]
- 19) Lu T, Hano H. Deletion of 8p23-22 regions associated with carcinogenesis and subsequent progression of hepatocellular carcinoma (肝細胞癌の発癌と進行に関連する 8p23-22 欠失). 第66回日本癌学会学術総会. 横浜, 10月. [日癌会総会記 2007; 66 : 477-8]
- 20) 鹿 智恵, 羽野 寛. 肝細胞がんの発生・進展に関連する 8p23-22 の高頻度欠失と意義. 第124回東京慈恵会医科大学成医会. 東京, 10月. [慈恵医大誌 2007; 122(6) : 247]
- graft calcification that developed early in a child recipient with hyperparathyroidism. Clin Transplant 2007; 21(Suppl.18) : 40-5.
- 2) 小林久仁子, 福永眞治, 根本 淳, 塩森由季子, 鷹橋浩幸. 子宮 perivascular epithelioid cell tumor の1例. 日臨細胞会誌 2007; 46(4) : 238-9.
- 3) 城 謙輔. IgA 腎症病理組織診断の国際的標準化に基づく病理情報の蓄積法とその臨床応用への開発 (課題番号 17590323). 平成17年度~平成18年度科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書. 2007.
- 4) 清川貴子. 女性腹膜中皮腫の鑑別診断: 卵巣癌の腹膜播種および腹膜原発腫瘍との病理学的鑑別. 平成19年度被認定者に関する医学的所見等の解析及びばく露状況調査業務報告書 (平成19年度環境省請負業務) 2008; 24-5.
- 5) 羽野 寛. (教育講演) 日常遭遇する形成外科領域の線維増殖性病変 (非腫瘍, 腫瘍) の病理. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会. 東京, 4月. [第50回日本形成外科学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2007; 114]

IV. 著 書

- 1) 鷹橋浩幸. 第I部 小線源療法に必要な前立腺病理の基礎. Dicker PA, Merrick SG, Waterman MF, Valicenti KR, Gomella GL 編, 青木 学, 三木健太監訳. 前立腺小線源治療: エビデンスとテクニック. 東京: 南江堂, 2007. p. 3-38.
- 2) 清川貴子. 第4章 婦人科病理のトピックス. Eifel PJ, Gershenson DM, Kavanagh JJ, Silva EG 編, 田中忠夫, 山田恭輔監訳. 婦人科癌: MD アンダーソン癌センターに学ぶ癌診療. 東京: シュプリンガー・ジャパン, 2007. p. 25-37.

V. その他

- 1) Kanetsuna Y, Hisano M¹⁾, Miura K¹⁾, Tanaka E²⁾, Hattori M³⁾, Teraoka S¹⁾ (1Tokyo Women's Med Univ), Yamaguchi Y. A case of massive kidney